

とれなくなつたお面

北茨城市

むかし大津に、ある母娘がいました。生活が貧しく、娘は隣村のお店で奉公することになりました。娘が旅立つ日、母はおかめの面を渡し「私に何かあったら面の様子が変わるから、すぐ帰って来ておくれ」と言いました。娘は、奉公先の米びつに面を入れ、毎日蓋を開けては笑っているおかめの面に安心していました。

ある日、同じ店の奉公人の男が、娘を驚かそうとおかめの面を般若の面にすりかえてしまいました。翌朝、娘が米びつの蓋を開け面を見ると、恐ろしい顔をしています。「おっかさんに何かあったに違いない」と、すぐさま面を持って家に向かいました。

途中、男たちがたき火の前で賭け事をしていました。寒かったので、娘は「少し火にあたらせて下さい」と言つて、般若の面を口にくわえ、両手を火にかざしました。男たちは、賭けに夢中で娘に気が付きません。やがて、男の一人がふと顔を上げると、たき火の煙の中に般若の顔が浮かんでいます。「はけものだ!」と叫ぶと、男たちはお金を置いたまま全員逃げてしまいました。娘はしばらく待っていました。誰か帰って来ないので、お金を拾って家に向かいました。



ところが帰ってみると、母は元氣そのもの。母は、娘が拾つたお金を庄屋さんに届け、「誰かのいたずらだから、知らん顔してなさい」と言つて娘を帰しました。

戻った娘は、般若の面を米びつに戻し、これまで通りに過ごしました。いたずらした男は「もつと驚かせてやろう」と、般若の面を付けて米びつの影に隠れ、待ち伏せます。翌朝、娘が近づくと「わおお」と言つて立ち上がりました。

毎日、般若の面を見ている娘は全く驚きません。拍子抜けした男が面を取ろうとすると、顔にびったりくっついて離れません。神さまや仏さまにも祈りましたが効果がなく、男はあきらめるしかありませんでした。

孝行娘の話は、他の村にも広く伝わり、庄屋さんに届けたお金も孝行のほうびとして娘に渡されたということです。

※大津：現在の北茨城市大津町

〈参考文献〉「茨城の昔ばなし」(文・藤田稔)



「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <http://www.ibaraki-isuzu.co.jp>